

## 実践報告

## 思春期における性教育の試み(2)

## — 市民講座に設定したピア・サポーターによる生や性の教育 —

水谷聖子\*、加藤章子\*、大橋裕子\*\*、丹羽さゆり\*\*\*

岡部千恵子\*\*\*\*、水谷 勇\*\*\*\*\*

## 要 旨

性感染症、人工妊娠中絶件数の増加など思春期における性の現状は、適切な性教育が展開されていない火急の課題である。思春期における性教育の一方法としてピア（仲間）による方法の有効性は言われているが、B県ではピアによる性教育は実施されていなかった。ピアによる性教育の現状をふまえ、ピア・サポーターを養成しピア・サポーターによる生や性の教育を市民講座に設定して実施した。講座には、事例、グループワークやワンポイントリレー講義を導入した。受講生にとって事例を用いたグループワークは事例を通して客観的に話し合うことができ、その体験を自分自身の価値観と重ねて考える機会になっていた。また、アンケート結果からはグループで話し合うことで価値観の多様性に気づき、話し合いの過程においてわからなかったことや知りたいことが明確になり、ワンポイントリレー講義を通して知りたかった新たな知識を習得していた。ピアによる性教育が効果的に実施されるためには、地域社会で性に関する問題を共有していく基盤が不可欠であることはいうまでもないが、今後は、ピア・サポーターの養成やピア・サポーターによる教育の効果測定など一般化に向けての検証や修正をしていく必要がある。

キーワード：思春期、ピア・サポーター、性教育

## I はじめに

青少年の性感染症の状況をみるとクラミジア感染や性器ヘルペスの罹患者が増加<sup>1)</sup>、人工妊娠中絶数や人工死産数においても増加傾向にある<sup>2~6)</sup>。青少年の性行動全国調査は、日本性教育協会が1974年からほぼ6年おきに行っており<sup>7, 8)</sup>、1999年の調査結果をふまえ、原は性行動の早期化・低年齢化の現象はますます進行するであろうと危惧を表明している<sup>9)</sup>。また、木原らは若者の性のカジュアル化やネットワーク化は、性感染症やHIV感染の爆発的な増加の前触れとし危惧している<sup>10)</sup>。このような現象を見る限り、現代の青少年が性に対する正しい知識のうえに自覚をもった性行動をとれているとは言い難く、思春期における性教育の体制づくりは火急の課題であるといえよう。

筆者らは、地域における思春期の性教育の現状やニ

ズを把握するため行政を対象にヒヤリングを行った。その結果、思春期にある生徒が自己決定して適切な性行動をとることができる教育や支援体制を望んでいるにも関わらず、普及や実践にあたって教職員や父母の価値観の違いなどによる困難さがある。さらに、ピア（仲間）による性教育のニーズがあるにもかかわらず実際には行われていないことがわかった。

これまでの文献検討の結果、性教育の場の拡大・専門職の介入の必要性について言及した文献は増加する傾向にあったが、具体的な手段・方法を明らかにしたものや体系化したものはなかった<sup>11)</sup>。筆者らは生涯学習の一環として人格を育てるという視点をもった生や性の教育を、あらゆるライフステージに対して多くの機関・職種が連携して行うことが有効であると考えているが、思春期における性をとりまく問題の大きさと性教育に対するニーズの高さをふまえ、ピア・サポーターの養成並びにピアによる生や性の教育を試みることにした。本来の「性教育」には、「生」をふまえた「性」の教育が行われるものである。しかし、性教育を性の一部だけをとらえた教育とする傾向もあり、ピアによる性教育において、あえて「生」を意識してほしい思いから、「生や性の教育」という言葉を採用した。性教

\* 日本赤十字豊田看護大学

\*\* 名古屋郵政健康管理センター

\*\*\* 名古屋市立大学

\*\*\*\* 元日本赤十字愛知短期大学

\*\*\*\*\* 神戸学院大学

育方法や内容の検討には、すでに取り組みられているピア・カウンセリング<sup>12,13)</sup>やピア・エデュケーション<sup>14)</sup>に関する資料収集のほか、担当者に直接たずね情報収集し内容を検討した。ピア・サポーターの養成においては、幅広い対象がピアとして実施できること、ピア・サポーターの養成から体験までがピアにとって一連の学習機会になり、ピア自身が性に対して自己決定できることを目指した。本稿では、ピア・サポーターによる性の教育の実際ならびにピア・サポーターによる性教育を受講した者の反応や本講座の受講前後に行ったアンケート結果をふまえ、ピア・サポーターによる性教育について検討した結果を報告する。

## II 研究目的

筆者らが養成したピア・サポーターによる性教育を概観するとともに、受講した参加者の反応や受講生を対象に行ったアンケート結果を分析することにより、今後のピア・サポーターによる性教育の展開に必要な示唆を得る。

## III ピアによる性教育の現状

ピアによる性教育は、他の機関との連携が必要な場合が多いこと、学校という限られた空間の教育に止まらないこと、性教育を受ける側の反応を見るとピアからの言葉がけには肯定的である場合が多いことなどから思春期における性教育の一方法として有効性は既に言われている<sup>12)</sup>。ピアによる性の教育はピア・カウンセリング、ピア・エデュケーションなど様々な方法で行われている。ピア・カウンセリングは、ピア同士が相互にエンパワーメントを図りながら、自分たちの性＝生の自己決定能力を高めていくことができ、ピア・カウンセリング手法による性教育講座や思春期相談などで活躍する。現在、ピア・カウンセリング実施のための研修は家族計画協会が主催し、若者ピア・カウンセラーの養成研修、ピア・カウンセリングのコーディネーター研修に次いで、2004 度からは若者のピア・カウンセラーに対するフォローアップ研修やピア・カウンセラー養成トレーナー講座が開催されている<sup>15)</sup>。ピア・エデュケーションによる性教育講座には東京都健康局の『エイズ・ピア・エデュケーション事業』がある。研修を受けた若者が学校の教室に出向き、あらかじめ設定されているカリキュラムに沿って情報提供や働きかけを行う、いわゆる「授業型」ピア・エデュケーションで

ある<sup>14)</sup>。また、看護学生をピアとして養成し実践している試みもいくつか報告されている<sup>12,16)</sup>。看護学生をピアとして展開していくことは、将来的には保健医療の専門職として対人関係に携わること、保健医療など知識や技術の習得段階であることから有用であろう。しかし、講義や実習だけでなく多忙な状況にある学生を対象に広く継続性をもって取り組むには、開催時期が限定されるだけでなく行政や学校など機関の連携をもとに緻密な計画が不可欠であろう。

## IV ピア・サポーター養成の概略

ピア・サポーター養成の企画段階から、ピアを希望する一部の学生の意見を聞きながら研修内容の検討を行った。ピアを希望する学生の中には、「性教育に必要な知識を体系的に学習したわけではない」「性について話すことに戸惑いを感じる」といった声があった。さらに、ピアのネーミングについては、カウンセラーやエデュケーターという用語にも抵抗感を感じるということであった。ピアを希望する学生の抵抗感が少なく、しかし、ピアとしての位置づけがわかるネーミングを考慮し、ここではピア・サポーターの名称に決定した。サポーター (supporter) とは、「支援者、賛成者、支持者」といった意味がある。サッカーの世界カップが国内で開催された後で馴染みが深く、ピアを希望する学生・筆者らともに賛同し、ピア・サポーターとした。

研修目的は、①性だけではなく、「生 (いのち)」を大切にすること。②妊娠・中絶や性感染症などに関する正しい知識をもつ。③ピア自身が性のイメージを肯定的にとらえ、主体的な姿勢 (行動) をとることができる。④ピア自身が主体的な「性」や「生」の教育に取り組むことができる。の4つをねらいとした。研修期間に留まらずピア・サポーターによる生や性の教育を実践することによって、さらに高められるということをもねらいとしている。研修期間は2日間で生や性の教育を行う当日の内容や方法を想定して進めた。

研修内容の1日目は、導入に①アンケート調査、②アイスブレイキング、③事例選択、④事例検討、⑤事例検討結果の発表、⑥アクティブリスニング、⑦リレー講義を行った。2日目は、①一日目の振り返り、②ピアとして伝えたいこと、③当日の企画準備などとした。ピアによる性教育の基本的なスキルのほか、方法に事例検討とグループ学習をとり入れたのは、性について語りやすい状況の設定と、ピアを希望する学生自身の生や性に対する理解と問題解決力を培う機会とした。

リレー講義は短時間での情報提供であり、これまでに青少年を対象に行われてきた調査結果、ピア養成カリキュラム内容やマスコミの報道内容などをもとにテーマを①性感染症、②エイズ、③妊娠・出産・中絶、④氾濫する性情報とした。ピア・サポーター養成講座受講生は、14人（男性4人、女性10人）であった。ピア・サポーターによる生や性の教育実施後は、ピア・サポーター自身が体験を振り返り話し合う機会として、グループインタビューによる話し合いの機会を設定した。詳細は別稿を参照されたい<sup>17)</sup>。

## V ピア・サポーターによる生や性の教育

本講座は、『私学をよくするB父母懇談会やB県高校生フェスティバル実行委員会』などで構成される第15回Bサマーセミナーにおいて開催した。このセミナーは3日間開催され、約900のさまざまな講座が開講され、一講座につき、午前か午後の2時間を与えられる。本講座はその一つとして開催日時は2003年7月の土曜日、午前10時～12時であった。会場は大学内の40人程度収容可能な教室であった。テーマは『ピア（仲間）と話そう、生&性のあれこれ』とした。地域に開かれた市民講座の機会であり、当日の受講生は高校生が中心ではあるものの、不特定多数の受講が予測された。よって、そのことを想定してピア自身の動揺が生じないよう当日の支援体制を整えた。

### 1. ピア・サポーターによる性教育の準備

ピア・サポーター養成時並びにピア・サポーターによる生や性の教育の実際においては我々は、ピアのピアとしての関わりを心がけ、適宜助言を行った。教育内容はピア・サポーターが中心に考え、ピアとして2時間で伝えたいこと、どう伝えたらわかりやすいか、ピア・サポーター養成講座内容を振り返りつつ意見を出し合い計画を立てていた。話し合いの中で、「こんなにも性について話したのは初めてだった」「お互いに話すことがよかった」「なんで性をいやらしいと思ったんだろう」「事例をもとに話し合いが行われたから抵抗なく性について話せた」「これまでの性教育は、私たちが知りたいことをきちんと教えてくれなかった気がする」「男性の考えていることがよくわからなかった」「話さないから余計にいやらしく感じると思う」といった発言があった。事例は、客観的に話すきっかけになり、わからないことや曖昧な知識を認識できるとの理由で事例検討を採用していた。事例は、養成時に提供したも

のを参考に性感染症や人工妊娠中絶に関する事項を盛り込むなど加筆し、イラストも取り入れていた。さらに、空き時間を活用して胎児のイメージがもてるように紙粘土で大きさ・重さを考えた胎児モデル人形の作成、パワーポイントを用いた資料の媒体作成、BGMの選曲など主体的に取り組んでいた。前日にはピアが主体となって集り、2時間のプログラム内容の共通理解を図り、当日の役割が遂行できるように情報交換や練習をしていた。

### 2. ピア・サポーターによる性教育実施状況ならびに受講者の反応

参加者を4～5人のグループとし、各グループに2名にピアを配置した。2時間の内容は、①アイスブレイキング、②事例についてのグループワーク、③ゲーム、④グループワーク内容の発表、⑤ワンポイントリレー講義とした。

ピアは当日の会場設営、参加の呼びかけやポスター掲示なども行ない直前の準備にも積極的に取り組んでいた。受講生は20人（男性5人・女性15人）であった。受付では友人同士が同じグループにならないようグループ分けを行ない、待ち時間を活用してアンケート調査を依頼した。受講前のアンケートでは、本講座受講の動機づけの意味を兼ねて性感染症、妊娠などに関して知識を問うもの、性のイメージや性についての意見などを求めた。性に関する知識は、木原ら厚生省（現、厚生労働省）HIV疫学研究班が1999年に実施した性行動調査からHIV・STD関連知識の普及状況に関する調査のうち、『エイズや性感染症』などの知識をたずねる調査<sup>18)</sup>に2003年から新たに公布・施行されたインターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律（平成15年法律第83号平成15年6月13日公布）、いわゆる出会い系サイトを利用した性犯罪に関する項目を加え一部改変したものを使用した。生や性に対する意識やイメージなどは筆者らが独自で作成した。アンケート調査にあたっては、調査用紙にアンケート協力に対する依頼の文書、プライバシーの守秘、アンケート協力は自由意志であることを明記し、口頭でも説明して協力を呼びかけた。アンケートの記載は講座が始まる前の待ち時間と講座開始の5分程度を記入時間として設定した。アンケートの回収は、講座終了後出口にアンケート回収ボックスを設置し、参加者の倫理的配慮を行った。

はじまりのアイスブレイキングでは、全体の司会・進行役を勤める学生やファシリテーターとして各グルー

プに入っている学生にも緊張感が感じられ、安心を求めるかのように筆者らの方を見たりする場面があった。アイスブレイキングを進める中で受講生からの笑いや反応によって徐々に緊張がとれていったようであった。

事例検討では、「好きだから、つきあっていったのに…」(資料1)をテーマとした事例についてグループワークを行った。事例配布後、各自が黙読し、ピア・サポーターらはファシリテーターとなり、a. 事例を読んでみた感想、b. 登場人物の思い、c. どうしてこうなったと思う? d. どうしたらよかったと思う? e. わからなかったこと・知りたいと思ったこと、f. その他として話し合いを進めた。「彼に伝えなかった彼女が悪い」「彼が無責任だと思う」「言えなかった彼女の気持ちもわかる」「妊娠や性感染症について知らない」といったそれぞれの立場からの視点や結果に対する意見を出し合っていた。その後、「セックスによって妊娠の可能性が生じてしまう」「きちんと避妊する必要がある」などの予防の視点、さらには「きちんと気持ちを伝えていくことが大切である」「正しい知識をもって行動する必要がある」といった、当事者自身がそれぞれの意志を持つことの大切さを指摘する表現に発展していった。また、中絶については「なぜいけないのか?」「身体への影響があるのか?」「性病は治るのか?」「身体への影響は?」といった疑問点もいくつか出てきていた。ピア・サポーターは参加者らの意見を引き出しながら話し合った内容を発表用紙にまとめ、資料の作成にあたった。また、意見を述べない参加者には無理強いすることなく配慮しながら進めていった。

ゲームは気分転換や参加者の交流を図ることと、グループワークの結果発表を行うグループの決定のために導入した。

グループワークの発表には各グループの内容を全て掲示した。発表数は3グループとし、参加者が発表するようにした。他のグループの意見を聞きながら、グループで話し合った内容と同じであったとか、話題にあがらなかった内容には関心を抱いたりしていた。

最後に行ったワンポイントリレー講義は①中絶って? ②セックスその後は…? ③男の子の本音・女の子の本音お互いを大事にするということについて行った。妊娠8週となる胎児モデルを実際に手にとってもらっていた。性感染症のところでは、今の自分自身と彼との関係、自分自身や彼の過去の関係など感染の可能性を段階的に示すことで「自分は大丈夫という安全はない」ことを伝えていた。性に対する男女による価値観の違い、自分自身の意志・相手の意志を尊重するとい

うことを伝えていた。妊娠中の胎児の写真、性感染症の写真やオリジナルの図表を活用して行った。また、参加者には後から振り返って見ることができるよう資料として配布した。

講座終了時には、最初の導入に使用した調査結果の回答を渡し、受講の感想や内容に対する意見などのアンケートを行った。アンケート実施にあたっては、受講前のアンケート同様に進めた。

### 3. 受講生のアンケート結果

アンケート調査は受講前と受講後の2回行った。アンケートに協力が得られたのは、高校生13人、大学生4人、不明1人の18人(男性3人・女性15人)であった。

#### 1) 受講前の調査結果

##### (1) HIV・STDなどの知識

エイズウイルスの感染ルート、性病の感染やピルに関する知識は70.0%~80.0%の人が概ね正しい回答をしていた。しかし、エイズ検査の方法や場所、エイズの治療になると半数近くが「わからない」あるいは誤答であった。性病罹患後の影響や中絶後の影響など「わからない」あるいは誤答している割合も50.0%前後を占めていた。インターネット異性紹介事業(出会い系サイト)を利用しての性犯罪についても「わからない」8人(47.1%)、誤答は5人(29.4%)であった(表1)。

##### (2) 生や性に対する意識

自分の心と身体を大切にしているかで「はい」と回答したのは、10人(58.8%)で、「わからない」と回答したのは7人(41.2%)であった。性について身近に相談できる人がいるかについて「はい」と回答したのは10人(58.8%)で、「いいえ」は5人(29.4%)、「わからない」は2人(11.8%)であった。性について話す相手は、友人と話すのは12人(70.6%)、親と話すのは3人(17.6%)に過ぎなかった。反対に親と話さないのは12人(70.6%)をも占めていた(表2)。

性に関する情報の入手先は、友人からの入手は17人中12人(70.6%)、雑誌10人(58.8%)、次いで学校、インターネット・TVの順番であり、親から情報入手はなかった(図1)。

性のイメージを自由記述で求めたが、10人(58.8%)が無記入であった。記述内容をみると、「大切なもの」「かけがえのないもの」「互いに愛し合って大切にしようとして成立するもの」といった記述があったのは3人で、「いやらしい感じ」「セックス」「下半身」「隠されているものいるもの」は4人であった。

性について知りたい内容を自由記述で求めたところ、

表1 ピア・サポーターによる生や性の教育受講前の調査結果

No.	項目				人 (%)	
		正しい	正しくない	わからない	合	計
1.	最近、日本の若者の間でエイズウイルス感染者が増えている。	15 (83.3)	0 (0.0)	3 (16.7)	18	(100)
2.	最近、日本の若者の間で性病患者が増えている。	11 (61.1)	0 (0.0)	7 (38.9)	18	(100)
3.	エイズウイルス感染者が使用した食器を使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある。	0 (0.0)	15 (83.3)	3 (16.7)	18	(100)
4.	エイズウイルス感染者が使用したお風呂に入ると、エイズウイルスに感染する可能性がある。	1 (5.9)	12 (70.6)	4 (23.5)	17	(100)
5.	エイズウイルス感染者が使用したトイレを使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある。	0 (0.0)	14 (82.3)	3 (17.7)	17	(100)
6.	性病にかかっていると、エイズにかかりやすい。	6 (33.3)	3 (16.7)	9 (50.0)	18	(100)
7.	口をつかったセックスで、口からペニスに性病がうつることがある。	14 (82.3)	0 (0.0)	3 (17.7)	17	(100)
8.	口をつかったセックスで、ペニスから口に性病がうつることがある。	14 (82.3)	0 (0.0)	3 (17.7)	17	(100)
9.	性病にかかると、必ず症状が出る。	5 (31.2)	5 (31.2)	6 (37.6)	16	(100)
10.	性病を治療しないと、赤ちゃんができなくなることがある。	5 (29.4)	2 (11.8)	10 (58.8)	17	(100)
11.	性病にかかっていると子宮がんにかかりやすくなる。	6 (35.3)	2 (11.8)	9 (52.9)	17	(100)
12.	新しい薬ができたので、エイズウイルスに感染してから発病するまでの期間を遅くすることができるようになった。	5 (29.4)	3 (17.7)	9 (52.9)	17	(100)
13.	普通のエイズ検査では、感染してから数日後に感染しているかどうかはわかる。	1 (6.7)	10 (66.7)	4 (26.6)	15	(100)
14.	エイズ検査が陽性の場合、感染者の名前や住所が国に報告される。	2 (13.3)	7 (46.7)	6 (40.0)	15	(100)
15.	保健所では、名前を言わずエイズ検査ができる。	5 (33.3)	3 (20.0)	7 (46.7)	15	(100)
16.	保健所では、無料でエイズ検査ができる。	6 (40.0)	3 (20.0)	6 (40.0)	15	(100)
17.	保健所では、名前を言わず無料でエイズ検査ができる。	6 (40.0)	3 (20.0)	6 (40.0)	15	(100)
18.	コンドームを使うことは、性病やエイズの予防に有効である。	10 (66.7)	1 (6.7)	4 (26.6)	15	(100)
19.	ピルは避妊薬である。	13 (81.3)	1 (6.3)	2 (12.5)	16	(100)
20.	ピルは、エイズの予防になる。	1 (6.3)	9 (56.3)	6 (37.5)	16	(100)
21.	ピルは、性病の予防になる。	1 (6.7)	11 (73.3)	3 (20.0)	15	(100)
22.	安全日さえ避妊すれば妊娠はしない。	3 (20.0)	8 (53.3)	4 (26.6)	15	(100)
23.	中絶をすると妊娠しにくくなる。	6 (40.0)	2 (13.3)	7 (46.7)	15	(100)
24.	18歳未満であれば、出会い系サイトを利用した援助交際しても罰せられない。	5 (29.4)	4 (23.5)	8 (47.1)	17	(100)

表2 受講前のアンケート結果 性に関する調査

項 目				人 (%)	
	はい	いいえ	わからない	合	計
1. 自分のことが好きですか	3 (17.6)	6 (35.3)	8 (47.1)	17	(100)
2. 自分の心と身体を大切にしていますか	10 (58.8)	0 (0.0)	7 (41.2)	17	(100)
3. 自分以外の人の心と身体を大切にしていますか	13 (76.5)	0 (0.0)	4 (23.5)	17	(100)
4. 性交はあなたにとって大切だと思うことですか	8 (47.1)	2 (11.8)	7 (41.2)	17	(100)
5. 性について身近に相談できる人がいますか	10 (58.8)	5 (29.4)	2 (11.8)	17	(100)
6. 親と性について話すことがありますか	3 (17.6)	12 (70.6)	2 (11.8)	17	(100)
7. 友人と性について話すことがありますか	12 (70.6)	2 (11.8)	3 (17.6)	17	(100)
8. 好きな人から性交を求められたら、					
1) 自分の意志をきちんと伝えられますか	12 (70.6)	2 (11.8)	3 (17.6)	17	(100)
2) 必ず避妊 (コンドームの装着) をしますか	13 (76.5)	4 (23.5)	0 (0.0)	17	(100)

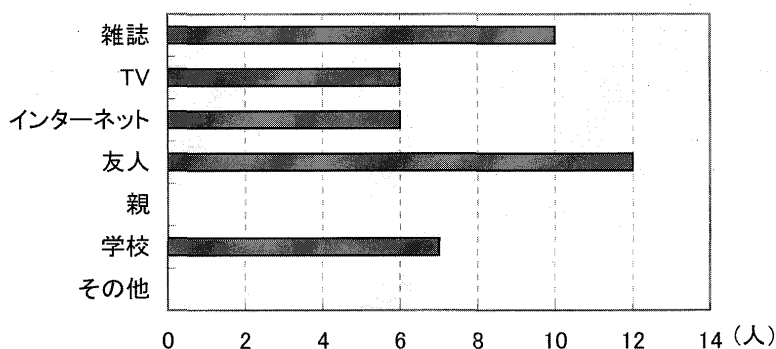


図1 受講前のアンケート結果 性情報の入手先 (複数回答)

9人が記述していた。内容は、「確実な避妊方法」3人、「妊娠中絶」2人、「性感染症」2人などであった。

高校生や中学生の性に関する行動について自由記述で意見を求めた。「避妊に対して誤った知識」「知識がなく妊娠や性感染症に」「責任がとれればよい」「そういう年頃」「簡単にセックスしてしまう」「周囲の意見に振り回されている、自分らしい意志をもつことが大切」などの記述があった。

## 2) 受講後の調査結果

アンケートの結果は「大変そう思う、そう思う、どちらともいえない、そう思わない、全く思わない」の5段階でたずね、「大変そう思う・そう思う」と回答した割合をみた。講座の内容が良かったかは17人(94.4%)、楽しかったかは16人(88.9%)、ピアの進行が良かったかは15人(83.3%)であった。時間については丁度良かったは9人(50.0%)であった。受講後の感想には、「知らないことがたくさんあった」「自分の意見が言えて良かった」「男女の気持ちに違いがあることがわかった」「性についてこんなに話し合ったのははじめてだった」「いろいろな考え方があるのだと思った」「パワーポイントの図や写真がわかりやすかった」「胎児模型がリアルだった」「胎児模型は命の重みを感じた」「中絶は難しい問題」などの意見があった。また、一方では「ピアの人がかっこよかった」「中絶や性感染症など知らない人多すぎる」などの意見もあった。性のイメージは12人(66.7%)が記述しており、「責任をもたないといけない」「人の気持ちが重要」といった内容が多く、「生>性」といった記述もあった。

今回のピアによる生や性の教育を受ける機会があった方がよいかでは、全員が「大変そう思う・そう思う」と答えていた。また、生や性の教育設定の機会については、「高校で」「若い人や大勢の人が集るところ」「学校祭」などの9人記述があった。今後自身がピアに

よる生や性の教育をやってみたいかについては12人(66.7%)が答えていた。

## VI 考察

### 1. ピア・サポーターによる性教育

これまでの文献検討の結果から、ピア・サポーターを希望する大学生自身が、HIVやSTD、妊娠や中絶などに関する教育を十分受けることなく過ぎてきたと想定できた。ピア・サポーター養成講座受講の前後にもHIVやSTDなどの知識や生や性に対する意識などの調査を行ったが、今回のピアによる生や性教育を受講者のアンケート結果の回答と同様の傾向を示していた<sup>17)</sup>。このことは、ピア・サポーターを希望する学生自身が養成講座やピア・サポーターによる性教育を通して性について学び、生について考える貴重な機会になったととらえることができる。また、企画においてピア・サポーターになった大学生自身がよく知らなかったことをきちんと知りたい、理解したいと思っていた内容と、ピアによる性教育の受講者が知りたいと思う内容と一致するのは、受講者と同年代か少しだけ人生の先輩であるピア・サポーター自身が企画している所以であると思われる。つまり、ピア・サポーター自身が知りたいと思っていた内容を明確にしていくことが受講者の知りたい内容の想定となり有効な学習時間になったと考える。

今回はピア・サポーターによる性教育を高校生夏休み最初に開催される市民講座に設定した。ピア・サポーターは、我々が想定した以上に積極的で養成講座以外の時間を割いて準備にあたっていた。受講生のアンケートの結果を見ると、講座内容やピアの進行など、ほとんどが「大変よかった・よかった」と答えていたことから、夏休みの最初という開講時期、ピア・サポーター養成講座修了して1週間後の開講など、ピア・サポーター

自身が養成講座受講の段階から徐々にモチベーションを高めて取り組むことができたと思われる。ピアによる性教育は、ピア・サポーターの努力もさることながらピアを刺激し、支援し続ける体制を十分整えて行くことが不可欠である。ピアの養成の段階からピア・サポーターとのコミュニケーションを図ることや彼らのよき理解者としての一貫した姿勢が求められ、さらに、活動継続のためのフォローアップ研修や定期的に企画するなど長期展望をもったの取り組みが必要である。そのことによってピアがピアを育てるといった体制をつくるのが可能となる。今後はどのように継続し、活動を発展させていくかが課題である。

## 2. 事例検討による学習効果

林は事例検討について、①事例には現実に対応するための知恵が含まれている、②事例そのものに関心を抱く、③事例には多くの知恵が含まれている、④直接体験できないことも事例で知ることができると述べている<sup>19)</sup>。高島はグループ学習について、仲間とともに主体的に学習することで課題に対する知識や理解が深まり問題解決できる技能の獲得につながる。さらに、グループの成長過程を通して人と人との交わりの尊さや難しさを学習する体験と述べている<sup>20)</sup>。我々はピア・サポーター養成講座そのものに事例検討としてグループワークを導入し、ピアも企画に入れていた。ピア・サポーターによる性教育実施後のグループインタビューにおいて、「事例を通して話し合うことで、自分自身に置き換えて考えることができた」と言った結果が導き出されていた<sup>17)</sup> ことから事例を通して感想、登場人物の気持ちや予防方法など具体的に話しあっていくというプロセスの体験を実感しており企画にも採用したと考えられる。また、受講者は、事例を通して話し合ったことや他者の意見を聞きさまざまな側面から考えるきっかけになり、知らないことを意識して聞くことでリレー講義もわかりやすく、楽しく参加できたと思われる。つまり、事例の導入によって、事例を通して性について話し合うことができ、話し合いの過程において知らないことが明確になる。さらに、他者の意見に耳を傾けることによって自らの発言や状況を客観的にとらえることができたという体験をしていたと考える。今回は2時間という限られた時間であり、ワンポイントリレー講義後にまとめのフリーディスカッションの導入ができなかった。まとめとしてのフリーディスカッションを導入することによって、ピアによる生や性の教育受講のまとめとなり、より効果的になると考える。

## 3. 地域や学校との連携

木原らは、アジアのエイズ大流行を目前に控え、国内においてエイズを含む性感染症の流行は若者を中心に本格化することを懸念し、科学的根拠に基づく予防教育の必要性を述べ実行あるエイズ予防教育をもとめて WYSH (Well-being of Youth in Sexual Health) プロジェクトに取り組んでいる。WYSHは社会(地域)、集団(学校)、個人のマルチレベルで展開され、社会レベル対策によって大幅に知識が向上したこと、集団レベル対策によって有意にセーフセックスや性感染症受診行動が促進されたことが確認され実行あるエイズ予防教育のエビデンスが獲得されたとしている。また、実行あるエイズ予防教育の条件として、①理念の統一、②オーディエンス主義、③マルチレベル、④プロセス評価、⑤効果評価、⑥パートナーシップを掲げている<sup>21)</sup>。高村らは、ピアによる性教育の手法を運用していくためにピア・カウンセラーの養成研修、ピア・カウンセラーのフォローアップ研修、ピア・カウンセラーリングのコーディネーター研修、ピア・カウンセラー養成者研修などタイアップさせた研修の必要性を明確にして企画し取り組んでいる<sup>22)</sup>。しかし、ピアによる性教育は若者のおかれている状況に一石を投じる程度に過ぎない。ピアによる性教育やカウンセリングがより有効に用いられるためには、地域社会で性に関する問題を共有し、生や性の教育における一手法として取り入れていくことがいくことがより有効である。

国内において携帯電話やパソコンなど情報機器の普及には驚くべき速さであり、商業的性情報の氾濫や性犯罪は後を絶たない。また、HIV感染者ならびにエイズ患者、性感染症、望まない妊娠による中絶や人口死産の増加は、B県も例外ではない<sup>23~25)</sup>。このような情勢に鑑み、性教育を試みようとするれば、根強く残る「寝た子を起こすな」や「性教育バッシング」がはじまる<sup>26)</sup>。B県の私学協会性教育研究会は、2001(平成13)年度から研究会独自の性教育カリキュラムを提示することを目標に、2002年度に県下の私立高校を対象に大規模な実態調査を行っている<sup>27)</sup>。このような調査行われたこと事体が画期的なことであり、高校生にかかわる現場のニーズでありオーディエンス主義と言えよう。今回の受講生の反応からみてもピアによる性教育の展開にあたって、今後はこのような機関とも連携を図りながら取り組む必要がある。現場レベルからの実行ある性教育を考え、社会(地域)、集団(学校)、個人のマルチレベルで展開される体制づくりが急務である。

## VII おわりに

B県ではじめてのピアによる生や性教育を展開し、講座内容に事例、グループワークやワンポイントリレー講義を導入した。受講した高校生らは、事例を通して性について話し、価値観の違いや自分自身の生や性について考える機会になっていた。また、ワンポイントリレー講義を通して、新たな知識を習得していた。ピアによる性教育に事例やグループワークを用いた方法は有用であると思われる。今後は、ピアを希望する他の大学生を対象にピア・サポーター養成ならびに実践を試み、教育内容や方法について検証を行う必要がある。また、地域社会で生や性に関する問題を共有し体系的な性教育のあり方について検討する必要がある。

最後に、ピア・サポーターとして活動した皆様はじめ、ピア・サポーターによる生や性の教育を受講しアンケートにご協力くださった皆様に心から謝辞を申し上げます。また、貴重な情報提供をしてくださりました、行政の皆様、ピアによる性教育を展開されている皆様に深謝いたします。

本研究は、日本地域看護学会第7回学術集会（2004年6月）において発表したものに加筆・修正したものである。

本研究は、2003年度神戸学院大学人文学研究推進費の助成を受けて行った研究の一部である。

## 文献

- 1) 国立感染症研究所感染症情報センター HP：  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/iasr-gg1.html>,  
2004.9.24.
- 2) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成14年母体保護統計報告書，財団法人厚生統計協会，12-13，2003.
- 3) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成11年人口動態統計下巻，財団法人厚生統計協会 612-613，2001.
- 4) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成12年人口動態統計下巻，財団法人厚生統計協会 612-613，2002.
- 5) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成13年人口動態統計下巻，財団法人厚生統計協会 612-613，2003.
- 6) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成14年人口動態統計下巻 財団法人厚生統計協会 612-613，2004.
- 7) 財団法人 日本性教育協会：性科学ハンドブック
- Vol. 3 若者の性はいま…青少年の性行動第4回調査，1997.
- 8) 財団法人日本性教育協会：「若者の性」白書—第5回青少年の性行動全国調査報告—，小学館，2001.
- 9) 原純輔：「青少年の性行動全国調査」の問いかけるもの「若者の性」白書—第5回青少年の性行動全国調査報告—，小学館，2001.
- 10) 木原正博・木原雅子：これからの HIV・STD 予防対策—最近の HIV 感染動向をふまえて—，生活教育，45(1)，24-36，2000.
- 11) 水谷聖子・岡部千恵子・小塩泰代他：生涯学習の一環としての性教育のあり方に関する基礎的研究—過去5年間の文献レビューから— 日本赤十字愛知短期大学，15，95-102，2004.
- 12) 松本清一：性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング，小学館，1999.
- 13) 高村寿子：ピアカウンセリング実践記録～Lovely Me and You～，家族計画協会，2000.
- 14) 東京都エイズ・ピア・エデュケーションマニュアル検討委員会：東京都エイズ・ピア・エデュケーションマニュアル，2003.
- 15) 日本家族計画協会 HP：  
<http://www.jfpa.or.jp/11-shidou/index.html>,  
2004.9.24
- 16) 荒木田美香子，川口知香，栗田千里：地域保健が取り持つ大学と高校の連携—ピア・エデュケーションによる性教育，保健の科学，43(5)，362-366，2001.
- 17) 丹羽さゆり，大橋裕子，水谷聖子他：思春期における性教育の試み（1）—ピア・サポーター養成講座を通して—，中京大学社会学部紀要，45-66，2004.
- 18) 木原正博 HIV 疫学研究班：厚生科学研究補助金 エイズ対策研究事業 HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究，平成13年度研究報告書，2002.
- 19) 林幸子：看護教育の方法 第4章 事例を使った授業，医学書院，68-100，1987.
- 20) 高島尚美：わかる授業をつくる看護教育技法 2. 討議法を取り入れた学習法 第5章 グループ学習，医学書院，160-180，2001.
- 21) 木原雅子・木原正博：青少年の性行動の現状とこれからの性感染症予防教育のあり方について—科学的予防 (Science-Based Prevention) の導入— 学校保健研究，46，149-154，2004.



- 22) 高村寿子：厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究、平成14年度研究報告書、2003.
- 23) 警察庁生活安全局少年課：少年非行等の概要（平成15年1～12月）、2004.
- 24) 愛知県警察 HP：  
<http://www.pref.aichi.jp/police/safety/shonen/bousi-6.html>, 2004.9.24.
- 25) 愛知県健康福祉部健康対策課感染症グループ HP：  
[http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/aids/no\\_of\\_infect/no\\_of\\_infect.htm](http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/aids/no_of_infect/no_of_infect.htm), 2004.9.24.
- 26) 金子由美子：性教育のキーワード 50 性教育バッシング SEXUALITY, 18, 88-89, 2004.
- 27) 愛知県私学協会性教育研究会：「高校生の性に関する調査」報告書、2003.

## 資料1 ピア・サポーターによる性教育で使った事例

### 『好きだから、つきあっていたのに…』

高校2年の時、1歳年上の先輩の子供を妊娠した。どうやら財布の中のコンドームを使っていたのがいけなかったらしい……。将来は彼との結婚も考えていた彼女は、『彼は受験を控えているし、今は二人で子どもを育てていけない』思いから、彼には内緒で人工妊娠中絶をした。

大好きな人の子供を妊娠したというのに、産婦人科の診察台の上でこんな格好をして、赤ちゃんの命を葬らなければならないなんて、涙が止めどなく流れた……。



それから1年。彼との関係は続き、会うときはいつも彼は身体を求めてきた。こんな関係は『いやだな……』と、思いつつも断ることはできなかった。そんなある日、たまたまコンドームが見つからず、1回ぐらいいは大丈夫だろうと思い、コンドームなしでSEXをした。



しばらくして、陰部に違和感があり、産婦人科を受診し「クラミジア」の診断を受けた。驚きと動揺、そして『もしかして、彼は浮気をしている？』との思いから、彼に話した。「俺は知らねえよ！」と、相手にされなかった……。そっけない反応に傷つき、私の身体をいたわってってくれない彼の冷たさに我慢できず、1年前の妊娠、中絶の話をした。そしたら……、

「おまえもその時、浮気をしてたんじゃねえの？お互いさまだよ。」  
「俺の子供って証拠はどこにある？おまえが、俺以外の男と寝ていない証拠はない」と真っ向から言われてしまった。

急に周囲が暗くなり、気が遠くなった。そして、彼女自分の耳を疑った。

2年以上もつきあっていたのに……。  
こんなにも愛していて、結婚も考えて、妊娠の時は彼の試験勉強のじゃましちゃいけないと思ひ、一人で涙を流しながら処置をして……。

彼との生活がずっと続くことを願っていたのに、信じられなかった……。

